



# 学校便り

## 学校教育目標

「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、  
行動できる児童・生徒の育成」

シカゴ日本人学校

6 月 号

平成29年6月20日発行

Tel : (847) 590-5700

Fax : (847) 590-9759

<http://www.chicagojs.com>

## 「愛 (I) メッセージ」を伝えましょう

シカゴ日本人学校 校長 浅井利眞

4月に新学期が始まり、早いもので2カ月を迎えました。5月28日の大運動会では、保護者の皆様のご理解、ご協力を得て、無事予定通りに実施することができました。ありがとうございました。大きな行事を一つずつ体験する度に子供たちは、知恵を獲得し、係活動等で責任を果たしたことにより自己有用感を高めているように思います。「豊かな体験活動を通して学びを深めている。心と体を育てている」のではないのでしょうか。

ところで、日本の誇れるものとしてアニメが挙げられます。その中で、漫画を原作として、テレビアニメ化、映画化、舞台化なども行われ海外でも人気なのが「ドラエもん」です。私も好きです。純粋に楽しさだけを求めればよいのですが、つい、教育者としての立場で「ドラエもん」を見てしまいます。

「ドラエもん」が長寿番組になった要素の一つとして人物構成があると思います。のび太はとても自尊心が低い子供です。お母さんは「〇〇しなさい」「□□しちゃだめよ」と指示・命令語を言い続けています。「しつけ」のつもりで言っているのですが、のび太の心には響いていません。このようなのび太に「失敗してもいいんだよ。やっpegおらん」「大丈夫、君ならできるよ」と繰り返し励ますドラえもんがいます。この励ましでのび太はやってみますが成功や失敗をします。成功すると「良かったね」とのび太と気持ちを共有します。失敗しても非難しません。このように、のび太に対する接し方を対極にしていることが面白さを作り出していると思います。

さて、ご家庭で皆さんが日頃子供によく掛けている言葉は何でしょうか。ある調査では、「早くしなさい」が一番、続いて「言うことを聞きなさい」「何度言ったらわかるの」だそうです。子供によりよい行動を身に付けさせたいという思いから発してしまう言葉ですが、なかなか我が子の行動が変わらないと悩むことはないでしょうか。子供の行動を変容したい時、親はとかく「はやく・・・」「どうして・・・なの」等と言う言葉掛けをしてしまいがちです。この場合、説教や非難、命令になりがちで、相手の気分を害して反発だけを買ひ、こちらの気持ちはなかなか相手に伝わりません。こうした言葉掛けは、主語が大抵『あなた(相手)』になっており、「あなた(You)メッセージ」と呼ばれています。これに対して主語を『わたし』にした言い方が「わたし(I)メッセージ」です。子供が自ら行動を変えようという気になるのが、この「わたし(I)メッセージ」と言われています。「すぐに・・・してもらえると、(お母さんは)とても助かるな」「・・・すると、(母さんは)とても困っちゃうよ」「・・・したから、(お父さんは)とっても嬉しいな」等々親の「わたし(I)メッセージ」を受け取った子供は、自分のどういう言動や行動が、親にどんな影響を与えて、親はどんな気持ちになっているのかが、はっきり分かります。だから、「すぐにやらなくちゃ」と受け入れたり、「ごめんなさい」と素直な気持ちになったり、「やってよかった」と満足感をもてたりするのです。「わたし(I)メッセージ」をつくるポイントは次の3つの要素を盛り込むこと。①子供の具体的行動→②わたしへの具体的影響→③わたしの素直な気持ちや感情「わたし(I)メッセージ」を伝えていくことで、自己肯定感が高まったり、思いやりの心が育ったりすることにも繋がるとも言われています。子供の笑顔いっぱいの成長、それを願う親の愛(I)を伝えてもらえたらと思います。

## 7月の予定

月	火	水	木	金	土	日
6月26日	27	28	29	30	7/1	2
		音楽集会 中3模擬テスト	幼)個人懇談 (~7/14) 中3模擬テスト	PTAヨガ研修 中3模擬テスト ふたばタイム		第1回 英語検定 2次
3	4	5	6	7	8	9
	Independence Day	全校朝会		小中個人懇談 小)七夕集会		
10	11	12	13	14	15	16
小中個人懇談	小中個人懇談	小中個人懇談	小中個人懇談 第1回漢字検定	ふたばタイム 幼)7,8月誕生会		
17	18	19	20	21	22	23
			1学期終業式 下校15:50	夏季休業開始		
24	25	26	27	28	29	30
学校閉鎖日	学校閉鎖日	学校閉鎖日	学校閉鎖日	学校閉鎖日		

# 運動会を振り返って

赤組団長 佐藤 孝樹

中学校最後の運動会。僕は団長を志望しようと考えていたが、自分に集団をまとめる力があるのだろうかという不安もあった。しかし、自分の力を全て発揮し、何か学校のために頑張りたい。そう考えていたためか、団長を決める場面で自然と立候補していた。実際に練習が始まると、予想していた通り全体を動かすのはとても難しく、失敗の繰り返しだった。毎日反省し、明日はどうやればスムーズに進めていけるかを考えていると、素直に言って団長の役目から逃げ出したいという気持ちも起きた。ここで辞めることができたらどんなに楽なのだろうと連日のように思っていた。

しかしそんな時、学校生活ですれ違う時などに「団長！」と声をかけてくれる人がたくさんいた。少し照れくさく、適切な反応ができなかったが、嬉しかった。自分を団長として見てくれていると感ずることができた。他にも多くの方が率先して助けってくれたり、アドバイスや励ます声をかけたりしてくれた。それからというもの、全員の前に立つということに少しずつ自信が出てきて、不安や恐怖心が無くなっていった。応援練習の方も流れに乗ってきて、赤組が徐々にまとまってきたと感ずるようになった。

気が付くと、練習計画を書いていたカレンダーが運動会の前日まで黒く塗りつぶされていた。その日の夜はほとんど眠ることができなかった。しかしそれは、不安ではなく大きな期待感からであった。今までやってき





たことを全部発揮したいと強く思うようになっていた。そんな前向きな姿勢になれたのも、皆が僕に付いてきてくれ、力を貸してくれたからだと思う。全力でやっていたら、応援してくれる人が必ずいる。団長をしてそのことを強く感じることができた運動会だった。当日は、勝ち負けに関係なく、赤白が最高に盛り上がったと思う。

より良いものを目指して本気で作りあげた応援団、雨雲をも吹き飛ばした全校生徒の気合いなど、今年の運動会は一生忘れられない素晴らしいものとなった。

## 白組団長 内山 紬希

私たち白組には確かな団結力があつた。それを証明することができたのは、最後の競技「大綱引き」であつた。グラウンドに傾斜があるため、二回戦制だと引き分けになる可能性が高い。けれども、白組は二連勝することができたのだつた。1～4年生までは全力で引っばることに集中させ、5年生以降は綱を引っばりやすくするための作戦を実行する。そこに、白組の団結力が発揮され、成功したのは、応援合戦を通して心一つにできたからだと思う。

まずは応援団の頑張りである。応援団は、運動会の準備期間中全ての昼休みに集まり、応援合戦の練習をした。ダンスや応援歌、コールなどたくさんの内容をすぐに覚え、みんなの前で指導できるように家でもしっかりと練習してくれた。そうした頑張りがあつたおかげで、白組はチームとしてまとまていくことができた。

次に、副団長を含め、白組のメンバーが練習中も積極的に声を出し、運動会当日も最後まで全力で頑張ってくれたことである。声出しの練習では、喉がつぶれるくらい声を出してくれていた。あるとき、練習内容が予定よりも早く終わり、残りの時間をどのように使うか悩むことがあつた。普通はざわざわしてしまうところだが、白組のみんなは次の指示を出すまで静かに待ってくれていた。団長の言葉を待っていることがその態度から伝わってきたし、信頼してもらっているというのを実感することができ、とても嬉しかった。

当日、私は肉離れになってしまい、万全の状態を迎えることができず、周りに迷惑がかかってしまうのではないかと心配だつた。しかし、白組のみんなの頑張りにより元気をもらって最後まで団長の役目をやり遂げることができた。白組の全員に全力で支えてもらったことに心から感謝したい。

競技の得点で赤組に負けはしたが、当日までの努力や頑張りには白組の方が勝つていたと思う。白組全員でやり遂げた運動会、応援のダンスが終わった後の何とも言えない達成感を、私は一生忘れられないだろう。本気で頑張った時にしか味わうことができないあの感覚を、白組みんな味わうことができた。団長になって、本当によかつたと思う。

